

1 令和7年度基本方針

(1) 教育理念及びその基盤をなすもの

【教育理念】

- ◇ 学則得「高遠之学」の継承・発展
- ◇ 実学を尊び、知行合一を目指す



天山学と高遠の学

「天山学」は、坂本天山（1745～1803）及びその門弟によって唱導された学問の総称であり、高遠藩学の骨子でもある。知行合一・思想則行実の学問であり、八代藩主頼直が進徳館開校の趣旨で述べているように、「実学」を旨としたのである。

この天山学の正統を受けつぎ、これを祖述・展開したのが、中村元恒（1778～1851）・元起（1820～1884）父子である。中村父子は、天山学に加えるに、医学・歴史学・地理学・文学を修め、研究は多方面にわたり、極めて学殖が深く、希月舎蔵書は、11,000余巻を数えるにいたっている。

この中村家の「実学」を中心として行われたのが、進徳館の教育であり、この学風をいわゆる「高遠の学」と称したのである。

「高遠の学」は即ち、言行一致であり、思想と行実が一致しており、その目的とするところは治国平天下・経世済民であった。今日にいう「産学一体」である。そして、その精神は塾生であった伊沢修二（1851～1917）がいみじくも『学則得』と高遠の学の真ずいを喝破している。

（「信州高遠学校百年史」より）

進徳館の教育

進徳館の建学の精神は、元起が起草したと思われる、藩主の「開校告諭書」に見られる。

これには藩士をして、「孝悌忠信の道を主とし、儒学の本意を失わず、実学専一に心掛けること」と述べられている。さらに進徳館教育の特色を述べる。

① 「実学」を教育の目標としたこと

天山の学風は、（略）空論を排し、実証的精神を重んずるものであり、元恒も身近な学問が大切であると述べており、元起も生活の中に学問在りとする佐藤一斎の影響も受けていたので、これを進徳館の教育の目標に掲げた。

② 授業の方法は輪講に重きを置き、自分で学び、考える習慣をつけるように努めたこと

授業は、素読→講義→輪講→自学自習の順で学習が進められた。教官の指示に従って暗唱するまで繰り返した。次にその意味を教官が講義した。ここまでは一斉授業で、次はグループ学習となり、グループ毎に各人が交替でその内容を説明し、これについて研究討議し、これを助教が指導した。あとは各人が自習し、分からない所を教官に質問して教えを受けた。このように各人の個性に応じてその長所を伸ばす指導が行われていた。

③ 日常生活習慣を正しくすることが、学問をするための基礎であること

元恒は、嘗て私塾の規則に次のことを掲げ、厳しく生活指導をした。

「学問をすることは、ただ書を読むだけではない。服装、言葉遣い、挙動、清掃など日常生活一切の躰ができて、はじめて書を学ぶ心構えができる。知識を与えることだけが教育ではない。また、時間を大切にし、無駄話に時を過ごしては行けない。友人関係を大切に」（以下略）

進徳館では、新入生は入学時に父兄と共に、生活心得二十箇条を読み聞かされたという。日常生活が学問の原点であることが強調された。

（岡部善治郎著「『高遠の学』と進徳館の教育」より抜粋）

『学則得』

進徳館で学び、後に明治の新教育の指導者として活躍した伊沢修二が郷里高遠に来られた時に、ある人の「進徳館の教育を一言で表せば何と言いますか。」という質問に答えたのがこの言葉であると伝えられている。この言葉は余りにも簡潔であるので、いろいろに解釈されているが、その意味するところは次のように解される。

『進徳館の教育は人格教育（徳育）を核とし、学んだことを自分でよく考えて、自主的に実践することによって体得する教育である。得は徳と同じ意味に使っていると考えてよい』

このように、進徳館の精神は現代の教育基本法（人格の完成）に通ずるものがあつたのである。

（岡部善治郎著「進徳のともしび」より）

(2) 学校教育目標

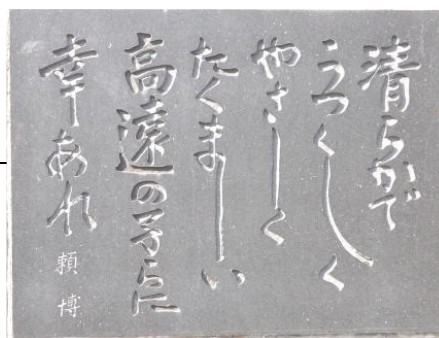
清らかで 美しく やさしく たくましい 高遠の子ら

当校はその前身筑摩県管内第十八小校の創立以来本年で満百年の歳月を閲した。

その間当校教育の進展に寄与された先賢先輩に深く感謝の意を捧げると共に教育の益々の興隆を期して諸々の記念事業を行い町民挙げてこれを祝福し決意を新たにした。

碑文は高遠藩主の後裔内藤頼博氏の揮毫である。当校に学ぶ児童が在校中というまでもなく当校を離れても生涯の座右の銘として精進することを念じてこれを刻した。当校に学ぶ児童等が健全に育つと共にその幸を祈ってこれを後世に伝えんとするものである。

高遠小学校創立満百年 記念事業実行委員会 (校長室南の百周年記念碑説明文)



2 グランドデザインによせて

「笑顔と意欲あふれる授業の創造」

本校の児童は素直で言われた課題などにはよく取り組むものの、自ら課題をもって取り組むことや、とことん追究していく力は今一步という課題がある。そこで、本年度も「笑顔と意欲あふれる授業の創造」を目標に掲げ、自ら興味を持ったことに探究心を寄せて、主体性をもって仲間と共に高め合う子どもの育成を目指し、子ども達が意欲的に取り組むための導入や課題把握を大切に考えていきたい。

また一昨年度、開校 150 年と統合 40 周年の記念行事を行う節目を祝うことができたが、引き続きふるさと高遠を材とした活動に各学級で取り組み、学級への所属感やふるさと「高遠」に思いを寄せる子どもの育成を図っていきたい。